

# 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	大学院の設置								
フリガナ設置者	コウリツダイガクホウジン サッポロシリツダイガク 公立大学法人 札幌市立大学								
フリガナ大学の名称	サッポロシリツダイガクダイガクイン 札幌市立大学大学院 (Graduate School of Sapporo City University)								
大学本部の位置	北海道札幌市南区芸術の森1丁目								
大学の目的	札幌市立大学大学院は、人間重視の考え方を基盤として学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、知と創造の拠点として札幌市におけるまちづくり全体により大きな価値を生み出し、地域社会に対する積極的な貢献を果たすことを目的とする。								
新設学部等の目的	デザイン研究科は、地域社会全体に内在する様々な課題に対してデザインによる解決策を教育・研究することにより、高度で専門的なデザイン能力を持った職業人の育成を目指し、産業、芸術・文化等の振興、地域再生・活性化などの貢献を果たす。 看護学研究科は、保健・医療・福祉分野における様々な課題に主体的に取り組む高度な看護実践能力を有する看護職及び総合的な調整能力を有する看護管理者の育成を目指し、市民の健康の保持増進への貢献を果たす。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	デザイン研究科 [Graduate School of Design] デザイン専攻 [Course of Design]	2	18	-	36	修士(デザイン学)	平成22年4月 第1年次	札幌市南区 芸術の森1丁目	
	看護学研究科 [Graduate School of Nursing] 看護学専攻 [Course of Nursing]	2	18	-	36	修士(看護学)	平成22年4月 第1年次	札幌市中央区 北11条西13丁目	
	計		36		72				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	デザイン研究科	29 科目	6 科目	2 科目	37 科目	30 単位			
看護学研究科	36 科目	20 科目	5 科目	61 科目	30単位又は34単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
	新設	デザイン研究科	13人 (13)	2人 (2)	4人 (4)	-人 (-)	19人 (19)	-人 (-)	14人 (14)
		看護学研究科	11人 (11)	3人 (3)	7人 (7)	-人 (-)	21人 (21)	-人 (-)	24人 (24)
		計	24人 (24)	5人 (5)	11人 (11)	-人 (-)	40人 (40)	-人 (-)	38人 (38)
	既設	該当なし	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
			- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
		計	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
	合計		24人 (24)	5人 (5)	11人 (11)	-人 (-)	40人 (40)	-人 (-)	38人 (38)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体								
	事 務 職 員		32 ( 29 )	22 ( 22 )	54 ( 49 )									
	技 術 職 員		2 ( 2 )	2 ( 2 )	4 ( 4 )									
	図 書 館 専 門 職 員		1 ( 1 )	9 ( 9 )	10 ( 10 )									
	そ の 他 の 職 員		- ( - )	2 ( 2 )	2 ( 2 )									
	計		35 ( 32 )	35 ( 35 )	70 ( 67 )									
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体								
	校 舎 敷 地	162,626.75 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	162,626.75 m <sup>2</sup>									
	運 動 場 用 地	18,102.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	18,102.00 m <sup>2</sup>									
	小 計	180,728.75 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	180,728.75 m <sup>2</sup>									
	そ の 他	5,040.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	5,040.00 m <sup>2</sup>									
	合 計	185,768.75 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	185,768.75 m <sup>2</sup>									
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体								
		34,941.82 m <sup>2</sup> ( 34,941.82 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	34,941.82 m <sup>2</sup> ( 34,941.82 m <sup>2</sup> )									
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体								
	29 室	33 室	23 室	6 室 (補助職員 -人)	0 室 (補助職員 -人)									
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		大学全体								
		デザイン研究科		39 室										
		看護学研究科		42 室										
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	芸術の森キャンパス 桑園キャンパス						
	デザイン研究科	70,257 [8,890] (66,477 [8,270])	790 [439] ( 746 [435] )	380 [380] (380 [380] )	3,095 (2,795)	6,200 (5,900)	1,725 (1,725)							
	看護学研究科	30,427 [1,323] (27,821 [1,237])	196 [120] (196 [120] )	115 [115] (115 [115] )	933 (813)	5,400 (5,300)	600 (600)							
	計	100,684 [10,213] (94,298 [9,507])	986 [559] (942 [555] )	495 [495] (495 [495] )	4,028 (3,608)	11,600 (11,200)	2,325 (2,325)							
図 書 館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体						
		2,002.29 m <sup>2</sup>		223 席		110,000 冊								
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体						
		2,661.12 m <sup>2</sup>		テニスコート (2面)		トレーニング室								
経 費 積 び 方 法 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度		第1年次		第2年次		第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体 図書購入費には電子ジャーナルの整備費(運用コスト含む)を含む。	
			実験系	非実験系	実験系	非実験系	実験系	非実験系						
		教 員 1 人 当 り 研 究 費 等	教授			1,500千円	600千円	1,500千円	600千円	— 千円	— 千円	— 千円		— 千円
			准教授			1,050千円	450千円	1,050千円	450千円	— 千円	— 千円	— 千円		— 千円
			講師			820千円	380千円	820千円	380千円	— 千円	— 千円	— 千円		— 千円
			助教			513千円	293千円	513千円	293千円	— 千円	— 千円	— 千円		— 千円
			助手			450千円	230千円	450千円	230千円	— 千円	— 千円	— 千円		— 千円
		共同研究費等			17,000千円		17,000千円		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		図書購入費	30,877千円		30,877千円		30,877千円		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		設備購入費	33,000千円		33,000千円		33,000千円		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り納付金	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次		
818千円		536千円		— 千円		— 千円		— 千円		— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			札幌市からの運営費交付金を充当する。											

既設大学等の状況	大学の名称	札幌市立大学 (Sapporo City University)							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	デザイン学部 デザイン学科 看護学部 看護学科	年	人	年次人 3年次 20	人 360	学士(デザイン学)	1.04	平成18年度	札幌市南区 芸術の森1丁目
		4	80	3年次 10	340	学士(看護学)	1.03	平成18年度	札幌市中央区 北11条西13丁目
附属施設の概要	名称：札幌市立大学サテライトキャンパス 目的：地域連携研究センター（市民公開講座、リエゾン機能等） 所在地：札幌市中央区北3条西4丁目 日本生命ビル5階 設置年月：平成18年10月 規模等：193㎡（専有面積）								

教育課程等の概要																	
(看護学研究科看護学専攻)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
研究科連携科目	国際関係特論	1・2 前		2		○			1	1				兼2	オムニバス		
	少子高齢社会特論	1・2 前		2		○								兼1			
	健康福祉政策特論	1・2 後		2		○								兼3	オムニバス		
	地域経済政策特論	1・2 後		2		○								兼1			
	ヒューマニティ特論	1・2 後		2		○								兼1			
	コミュニケーション特論	1・2 前		2		○								兼1			
	連携プロジェクト演習	1 通		2			○		11	3	6			兼18			
小計 (7科目)		-	-	14	-	-	-	11	3	6	0	0					
専門基礎科目	看護理論特論	1 前	2			○			1					兼1	オムニバス		
	看護研究法特論	1 前	2			○			2						オムニバス		
	看護倫理学特論	1 前		2		○			1					兼1	オムニバス		
	看護管理学特論	1 前		2		○			2						オムニバス		
	臨床哲学特論	1 後		2		○								兼1			
	看護コンサルテーション特論	1 後		2		○			1					兼1	オムニバス		
	看護専門職教育特論	1 前		2		○			1								
	継続教育特論	1 後		2		○								兼3	オムニバス		
	寒冷地生活支援看護学特論	1 後		2		○			1					兼2	オムニバス		
	家族看護学特論	1 後		2		○				1				兼1	オムニバス		
小計 (10科目)		-	4	16	-	-	-	7	1	0	0	0					
専門教育科目	地域生活看護学領域	地域生活看護学特論	1 前		2		○			3						オムニバス	
		老年看護学特論	1・2 後		2		○			1							
		在宅看護学特論	1・2 後		2		○			1							
		地域看護学特論	1・2 後		2		○			1							
		地域生活看護学演習	1 通		2			○		3							
		老年看護学演習	1・2 通		2			○		1		1					
		在宅看護学演習	1・2 通		2			○		1		1					
		地域看護学演習	1・2 通		2			○		1		1					
	母子看護学領域	母子看護学特論	1 前		2		○			2							オムニバス
		母性看護学特論	1・2 後		2		○			1							
		小児看護学特論Ⅰ	1・2 後		2		○			1							
		小児看護学特論Ⅱ	1・2 前		2		○			1							
		母子看護学演習	1 通		2			○		2	1	1					
		母性看護学演習	1・2 通		2			○		1		1					
		小児看護学演習	1・2 通		2			○		1	1						
		小児看護学実習Ⅰ	1・2 通		4				○	1	1						
	小児看護学実習Ⅱ	1・2 通		2				○	1	1							
	成人看護学領域	成人看護学特論	1 前		2		○			2							オムニバス
		急性期看護学特論	1・2 後		2		○			1							
		慢性期看護学特論	1・2 前		2		○			1							
		急性期病態管理学特論	1・2 後		2		○								兼3	オムニバス	
		成人看護学演習	1 通		2			○		2		1					
		急性期看護学演習	1・2 通		2			○		1		1			兼2	オムニバス	
		慢性期看護学演習	1・2 通		2			○		1							
		急性期看護学実習	1・2 通		6				○	1		1			兼2	オムニバス	
	精神看護学領域	精神看護学特論Ⅰ	1 前		2		○			1					兼1	オムニバス	
		精神看護学特論Ⅱ	1・2 後		2		○			1					兼1	オムニバス	
		精神看護学特論Ⅲ	1・2 前		2		○			1					兼1	オムニバス	
		精神看護学演習Ⅰ	1 通		2			○		1	1						
		精神看護学演習Ⅱ	1・2 通		2			○		1	1						
		精神看護学実習Ⅰ	1・2 通		4				○	1	1						
		精神看護学実習Ⅱ	1・2 通		2				○	1	1						
		看護技術学領域	看護技術学特論Ⅰ	1 前		2		○			1						
	看護技術学特論Ⅱ	1・2 後		2		○			1								
	看護技術学演習Ⅰ	1 通		2			○		1					兼1	オムニバス		
	看護技術学演習Ⅱ	1・2 通		2			○		1	1							
小計 (36科目)		-	-	80	-	-	-	11	3	5	0	0					

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
専 門 教 育 科 目	看護教育・看護マネジメント学分野 看護教育・管理学分野	看護教育・看護マネジメント学特論	1	前		2		○			2						オムニバス
		看護教育学特論	1・2	後		2		○			1						
		看護マネジメント学特論	1・2	後		2		○			1						
		看護教育・看護マネジメント学演習	1	通		2			○		2						
		看護教育学演習	1・2	通		2			○		1		1				
		看護マネジメント学演習	1・2	通		2			○		1		1				
	小計 (6科目)		-	-		12	-	-	-	-	2	0	2	0	0		
	研 究	特別研究	1～2	通		8			○		11	3	6				
		課題研究	1～2	通		4			○		3	2	0				
		小計 (2科目)		-	-		12	-	-	-	-	11	3	6	0	0	
合計 (61科目)			-	-		4	134	0	-	-	11	3	7	0	0		
学位又は称号		修士 (看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
看護学研究科の修了要件は、研究科連携科目から4単位以上、専門基礎科目から8単位以上(必修科目4単位を含む。)、選択する看護分野領域・分野の専門科目から8単位以上、特別研究8単位、研究科連携科目及び専門教育科目から2単位以上、合計30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 専門看護師の認定希望者は、研究科連携科目から4単位以上、専門基礎科目から8単位以上(必修科目4単位を含む。)、選択する看護分野領域・分野の専門科目から実習を含めて16単位以上、研究は特別研究に代えて課題研究4単位、研究科連携科目及び専門教育科目から2単位以上、合計34単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、課題研究論文の審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分			2期						
								1学期の授業期間			15週						
								1時限の授業時間			90分						

教 育 課 程 等 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
研究科連携科目	国際関係特論	1・2 前		2		○			1	1					兼2 オムニバース	
	少子高齢社会特論	1・2 前		2		○									兼1 オムニバース	
	健康福祉政策特論	1・2 後		2		○									兼3 オムニバース	
	地域経済政策特論	1・2 後		2		○									兼1 オムニバース	
	ヒューマニティ特論	1・2 後		2		○									兼1 オムニバース	
	コミュニケーション特論	1・2 前		2		○									兼1 オムニバース	
	連携プロジェクト演習	1 通		2			○		11	3	6				兼18	
小計(7科目)		-	-	14	-	-	-	11	3	6	0	0				
専門基礎科目	看護理論特論	1 前	2			○			1						兼1 オムニバース	
	看護研究法特論	1 前	2			○			2						オムニバース	
	看護倫理学特論	1 前	2			○			1						兼1 オムニバース	
	看護管理学特論	1 前	2			○			2						オムニバース	
	臨床哲学特論	1 後	2			○									兼1 オムニバース	
	看護コンサルテーション特論	1 後	2			○			1						兼1 オムニバース	
	看護専門職教育特論	1 前	2			○			1							
	継続教育特論	1 後	2			○									兼3 オムニバース	
	寒冷地生活支援看護学特論	1 後	2			○			1						兼2 オムニバース	
	家族看護学特論	1 後	2			○				1					兼1 オムニバース	
小計(10科目)		-	4	16	-	-	-	7	1	0	0	0				
専門教育科目	地域生活看護学領域	地域生活看護学特論	1 前		2		○			3						オムニバース
		老年看護学特論	1・2 後		2		○			1						
		在宅看護学特論	1・2 後		2		○			1						
		地域看護学特論	1・2 後		2		○			1						
		地域生活看護学演習	1 通		2			○		3						
		老年看護学演習	1・2 通		2			○		1		1				
		在宅看護学演習	1・2 通		2			○		1		1				
		地域看護学演習	1・2 通		2			○		1		1				
	母子看護学領域	母子看護学特論	1 前		2		○			2						オムニバース
		母性看護学特論	1・2 後		2		○			1						
		小児看護学特論Ⅰ	1・2 後		2		○			1						
		小児看護学特論Ⅱ	1・2 前		2		○			1						
		母子看護学演習	1 通		2			○		2	1	1				
		母性看護学演習	1・2 通		2			○		1		1				
		小児看護学演習	1・2 通		2			○		1	1					
		小児看護学実習Ⅰ	1・2 通		4				○	1	1					
		小児看護学実習Ⅱ	1・2 通		2				○	1	1					
	成人看護学分野	成人看護学特論	1 前		2		○			2						オムニバース
		急性期看護学特論	1・2 後		2		○			1						
		慢性期看護学特論	1・2 前		2		○			1						
		急性期病態管理学特論	1・2 後		2		○									兼3 オムニバース
		成人看護学演習	1 通		2			○		2		1				
		急性期看護学演習	1・2 通		2			○		1		1				兼2 オムニバース
		慢性期看護学演習	1・2 通		2			○		1						
		急性期看護学実習	1・2 通		6				○	1		1				兼2 オムニバース
	精神看護学領域	精神看護学特論Ⅰ	1 前		2		○			1						兼1 オムニバース
		精神看護学特論Ⅱ	1・2 後		2		○			1						兼1 オムニバース
精神看護学特論Ⅲ		1・2 前		2		○			1						兼1 オムニバース	
精神看護学演習Ⅰ		1 通		2			○		1	1						
精神看護学演習Ⅱ		1・2 通		2			○		1	1						
精神看護学実習Ⅰ		1・2 通		4				○	1	1						
精神看護学実習Ⅱ		1・2 通		2				○	1	1						
看護技術学領域	看護技術学特論Ⅰ	1 前		2		○			1							
	看護技術学特論Ⅱ	1・2 後		2		○			1							
	看護技術学演習Ⅰ	1 通		2			○		1						兼1 オムニバース	
	看護技術学演習Ⅱ	1・2 通		2			○		1	1						
小計(36科目)		-	-	80	-	-	-	11	3	5	0	0				

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
専門 教育 科目	看護 マ ネ ジ メ ン ト 学 分 野  看護 マ ネ ジ メ ン ト 学 分 野	看護教育・看護マネジメント学特論	1	前		2		○			2						オムニバス
		看護教育学特論	1・2	後		2		○			1						
		看護マネジメント学特論	1・2	後		2		○			1						
		看護教育・看護マネジメント学演習	1	通		2			○		2						
		看護教育学演習	1・2	通		2			○		1		1				
		看護マネジメント学演習	1・2	通		2			○		1		1				
	小計(6科目)		—	—	—	12	—	—	—	—	2	0	2	0	0		
	研究	特別研究	1～2	通		8			○		11	3	6				
		課題研究	1～2	通		4			○		3	2	0				
	小計(2科目)		—	—	—	12	—	—	—	—	11	3	6	0	0		
合計(61科目)			—	—	4	134	0	—	—	11	3	7	0	0			
学位又は称号		修士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
看護学研究科の修了要件は、研究科連携科目から4単位以上、専門基礎科目から8単位以上(必修科目4単位を含む。)、選択する看護分野領域・分野の専門科目から8単位以上、特別研究8単位、研究科連携科目及び専門教育科目から2単位以上、合計30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 専門看護師の認定希望者は、研究科連携科目から4単位以上、専門基礎科目から8単位以上(必修科目4単位を含む。)、選択する看護分野領域・分野の専門科目から実習を含めて16単位以上、研究は特別研究に代えて課題研究4単位、研究科連携科目及び専門教育科目から2単位以上、合計34単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、課題研究論文の審査及び最終試験に合格すること。							1学年の学期区分		2期								
							1学期の授業期間		15週								
							1時限の授業時間		90分								

教育課程等の概要

（看護学研究科看護学専攻）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科連携科目	連携プロジェクト演習	1 通		2			○		11	3	6	0	0	兼18	
	小計（1科目）	-	-	2	-	-	-	-	11	3	6	0	0		
専門基礎科目															
	実践看護学分野	地域生活看護学領域													
		母子看護学領域													
		成人看護学領域													
		精神看護学領域													
		看護技術学領域													
	看護マネジメント分野	看護教育・管理学領域													
研究															
合計（1科目）		-	-	2	-	-	-	-	11	3	6	0	0		
学位又は称号		修士（看護学）		学位又は学科の分野				保健衛生関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
看護学研究科の修了要件は、研究科連携科目から4単位以上、専門基礎科目から8単位以上（必修科目4単位を含む。）、選択する看護分野領域・分野の専門科目から8単位以上、特別研究8単位、研究科連携科目及び専門教育科目から2単位以上、合計30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 専門看護師の認定希望者は、研究科連携科目から4単位以上、専門基礎科目から8単位以上（必修科目4単位を含む。）、選択する看護分野領域・分野の専門科目から実習を含めて16単位以上、研究は特別研究に代えて課題研究4単位、研究科連携科目及び専門教育科目から2単位以上、合計34単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、課題研究論文の審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分			2期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				



授業科目の概要			
(看護学研究科看護学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科連携科目	国際関係特論	<p>(概要) 本講義はデザイン研究科、看護学研究科の学生が、将来、高度専門職業人として社会で活躍する上で必要となる諸外国の状況、異文化、国際関係について理解を深める。特に我が国の国際保健活動や国際看護活動等、身近なテーマを取り上げ、その背景にある諸外国の民族性や文化を理解しつつ、国際関係を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 スーディ神崎和代/5回) 10年の看護実践経験と15年以上に及ぶ諸外国での医療施設立ち上げに先立っての人口統計・保険制度・経済状況調査、関係政府機関との調整、医療施設開設後の運営・管理・教育の経験から米国・南米を中心に国際関係を学ぶ。</p> <p>(41 南裕子/4回) 日本と諸外国との国際協力体制、国際看護活動から国際関係を理解する。</p> <p>(42 玉城英彦/4回) WHOの歴史的背景・組織・役割、世界的な感染症などの課題への戦略から国際関係を考察する。</p> <p>(12 大野夏代/2回) JICAの技術協力の位置づけと活動から国際関係と国際協力を学ぶ。</p>	オムニバス方式
	少子高齢社会特論	<p>デザイン及び看護分野の高度専門職業人として必要な基本的知識として、今後の少子高齢社会の将来動向について学ぶ。具体的には北海道と札幌市に焦点をあて、国立社会保障人口問題研究所の統計データや将来推計などをもとに、わが国全体における少子高齢社会の到来とその背景、その中における北海道と札幌市の地域特性、将来動向について学ぶとともに、それらの変化が、地域社会、ライフスタイル、家族関係、地域経済、地域福祉などに与える影響と、そこからどのような都市再生のための長期戦略デザインが必要かを考える。</p>	
	健康福祉政策特論	<p>(概要) 日本の医療供給体制、医療保険制度、国民医療費の現状や特徴及び課題を、諸外国と比較しながら理解する。政策評価の一つの指標である臨床経済学的手法の基礎を理解する。保健・医療・福祉に関する制度・施策の中から、特に重要と思われるものを取り上げ、その歴史的背景を踏まえながら最近の施策の動向と課題について議論する。同時に、自治体行政における保健・医療・福祉諸制度の現状、課題、今後の方向性についても理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(43 大久保一郎/5回) 医療供給体制(施設数、医療従事者等)、医療保険制度、国民医療費、診療報酬制度の現状、課題などを理解する。また臨床経済学の基礎を理解する。</p> <p>(44 館石宗隆/8回) 救急医療、災害時医療の特殊性、介護保険制度創設の理念と概要、認知症の人の支援のあり方、新しい成年後見制度の概要について理解する。</p> <p>(45 岡村龍一/2回) 札幌市の健康福祉施策の概要と今後の展開、国民健康保険制度の現状と課題について理解する。</p>	オムニバス方式
	地域経済政策特論	<p>地域に暮らす住民がより安全で快適にあるためには何が必要か。デザイン及び看護分野の高度専門職業人として、専門領域の知識に加えていかなる基本的知識を持てば地域社会に貢献できるのか。本講義では、経済学、経営学、財政学、社会学、行政学などの諸分野から、地域経済の運営に関する理論を抽出し紹介する。かつ、北海道、札幌という具体的な対象を想定し、これらの理論がいかに適用されるべきかを検討する。最後に、しばしば話題になる、地域創成に向けて“何をなすべきか”を考える。</p>	

## 授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科連携科目	ヒューマニティ特論	人文系教養(ヒューマニティズ)の3本柱である哲学・史学・文学の統合的な視点から、環境アメニティの本質について深く思索する。毎回、日本近現代の著名作家の小説の中から環境アメニティを追求した作品を1つ取り上げ、①そのテーマを具体的に認識し(文学)、②その社会的背景を歴史的脈絡の中で把握し(史学)、③そこから現代的意義を持つ思想を汲み取って批判的に吟味する(哲学)。こうした思索過程を辿ることにより得られる成果から、④今後の研究を展望する。	
	コミュニケーション特論	地域におけるデザイン及び看護分野のプロジェクトや地域活動の推進に求められるコミュニケーションの諸問題を学ぶ。地域住民との協働が必要とされる、立場・背景・世代・利害の異なる人々とのコミュニケーション及び小グループコミュニケーションの理論を学習し、それらを基礎とした問題の把握や解決の方法論について考える。具体的にはコミュニケーションの成否に関わる心理的、社会的、物理的要因や地域活動で直面する関係構築・維持、説得や対立状況の対処などの課題を取り上げる。	
	連携プロジェクト演習	本学大学院の教育・研究理念である“デザインと看護が連携した取組による地域貢献”を実現するため、デザイン研究科と看護学研究科が連携して行う授業である。ここでは、社会的・地域的課題に対して、デザイン及び看護双方の視点から焦点を定め、両研究科の知見を総合化して解決策を探り、継続的・発展的な取組により行政などへ提言することをねらいとしている。具体的には、両研究科の教員及び学生を混在させた小グループを編成し、グループ毎に社会や地域の抱える課題をフィールド調査・分析し、解決策を導出・展開、公開成果発表会などを通して行政や市民に広く提言する。	
専門教育科目	看護理論特論	<p>(概要) 看護実践の基盤になる諸理論の理解と看護現象や看護活動に必要な知識を教授する。看護理論が開発された歴史的経緯、および看護理論を評価する枠組みを学習する。この評価枠組みを用いて、各看護理論の記述、分析、クリティックの方法を習得する。また、概念分析の手法を理解し、自らの専門領域における概念分析の文献をレビューする。さらに自らの専門領域に適用可能な理論を選択し、看護実践への理論の応用を探究する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(48 黒田裕子/10回) 看護理論開発の歴史的背景、理論の類型、分析方法および評価方法を教授する。</p> <p>(2 内田雅子/5回) 専攻領域で活用可能な中範囲理論を選択し、実践への適用のあり方を論述する。</p>	オムニバス方式
	看護研究法特論	<p>(概要) 臨地看護研究を想定し、研究課題の絞込み、文献検討、理論的枠組みの活用、研究デザインの選択方法、研究計画の立案、データ収集方法、分析方法、結果の提示手法と考察の論述等の諸側面について学修する。また、質的研究と量的研究の基礎的手法と、相補性の意義について論述し合う。さらに、研究活動における倫理的配慮および社会的責務に対する認識を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(9 松浦和代/8回) 看護研究の基本的なステップ、研究課題・研究デザインに基づく研究計画の立案までを学修する。</p> <p>(2 内田雅子/7回) 看護研究で使用頻度の高い研究方法論を学修する。</p>	オムニバス方式

## 授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目  専門基礎科目	看護倫理学特論	(概要) 生命尊重および人間の尊厳を踏まえた看護実践に必要な倫理的視点を基盤に、看護実践上の倫理的課題の識別およびその解決に向けた方策を理解する。さらに、看護職の責任と役割を探究する。  (オムニバス方式/全15回)  (49 今井道夫/7回) 「倫理学」の知識を基盤に、「生命倫理学」、「臨床の倫理」および「専門職の倫理」を理解する。  (10 宮崎みち子/8回) 倫理原則および看護倫理綱領と看護実践との関連性を見極める。加えて、看護実践上の倫理的概念を基に、倫理的課題を識別し、その課題解決に必要な倫理的意思決定の考え方を理解する。各種事例を題材に、看護実践上の倫理的課題の識別および課題解決の実際を検討する。	オムニバス方式
	看護管理学特論	(概要) 看護職の責任の重大性が益々高くなる状況で、今日の保健医療における看護の役割を確認し、医療安全と質の向上を図り、効率的・効果的な看護サービスを提供していくための組織と看護管理のあり方を学ぶ。  (オムニバス方式/全15回)  (4 河野總子/10回) 看護管理発展過程を歴史的体系的に学び、その知識体系である組織論、人的資源活用論、情報管理論、医療福祉制度政策論などを学び、組織アセスメント能力と政策提言を含む問題解決能力を習得し、目標達成のあり方を展望する。  (1 中村恵子/5回) 看護管理に重要な安全の側面からCDCの感染抑制ガイドラインや関係法を理解し、感染予防・抑制等への対応ができ、高度専門職者として管理者と協働した看護活動ができる知識と方略を学ぶ。	オムニバス方式
	臨床哲学特論	人間は自然界の法則に従うと同時に、文化的風俗、法記録を構築してきた。今やこの文化的法則が自然的法則と激しく軋轢を起こしている。中絶、安楽死、尊厳死、脳死臓器移植、不妊治療、遺伝子治療など、はては高齢者医療にまで及んでいる。これらの問題を解決するための尺度が、私達には急務である。従来は人格あるいは社会からの原理である自律が最上位と据え置かれ、民主主義を構成する原理とされていた。しかし、現在は多くの問題は自律では解決しない。社会保障とそれぞれの状況の下でどのようなあり方が人間にとって最善なのかを自律という価値規範を倫理の問題に応用することを試みる。この際に生ずる問題を参加者全員で議論したい。	
	看護コンサルテーション特論	(概要) 看護分野におけるコンサルテーションの概念、実践モデル、コンサルタントの役割及びコンサルティングのプロセスを学ぶ。また、専門看護師(CNS)の行うコンサルテーション及び管理的コンサルテーションの実践について学ぶ。  (オムニバス方式/全15回)  (4 河野總子/11回) コンサルテーションの定義・タイプ・実践モデル・役割・プロセス、及び特徴について、その倫理的側面と実際を学び、コンサルテーション企画案の作成を試み、コンサルタントスキルの条件について考察する。  (51 藤野智子/4回) 病院組織・看護部の組織診断および職種別コンサルテーションについてケーススタディから学び、技術開発者の育成等も理解しつつ、CNSとしてのコンサルテーション技術を習得し、相談者への適切な援助ができることを目指す。	オムニバス方式

## 授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目  専門基礎科目	看護専門職教育特論	教育学に関する基礎的理論を学習し、看護基礎教育、継続教育、卒後教育に共通して求められる基本的知識・技術を理解する。また、この過程を通して、看護専門職として様々な状況において教育的機能を発揮するための要件を考察する。	
	継続教育特論	(概要) 継続教育を専門職(看護職)の生涯発達の視点からとらえ、(看護)基礎教育との連携・統合を目指し理解し発展させることを目指す。特に看護教育学の3領域(看護基礎教育、看護卒後教育、看護継続教育)の対象、目的、意義について学習する。  (オムニバス方式/全15回)  (52 佐藤紀子/6回) 継続教育の歴史的変遷を理解し、継続教育の体系・内容・方法について学び、生涯学習における継続教育の目的やあり方を学習する。  (53 舟島なをみ/4回) 看護継続教育に着眼し、看護継続教育機関が提供する教育、看護職が就業する組織が提供する教育の目的や意義などの学習を深め、看護継続教育の現状と課題を理解するとともに、課題の克服に向けた方略について検討する。  (54 中山登志子/5回) 看護継続教育の教師教育に着眼し、ファカルティ・ディベロップメントの目的や意義を理解し、その現状と課題について検討する。また、看護学実習指導に焦点を当て、学生の実習目標達成を支援する教授活動と実習評価について理解するとともに、教授活動の質向上に向けた課題を検討する。	オムニバス方式
	寒冷地生活支援看護学特論	(概要) 寒冷地に生活する人々の健康と生活の質に着目し、地域生活環境や文化的特性、価値観、保健医療福祉上の課題を理解し、地域で暮らす人々のQOL向上とエンパワーメントの支援方法について探究する。  (オムニバス方式/全15回)  (5 坂倉恵美子/8回) 寒冷地における高齢者等の健康問題を概観し、よりよい生活支援を行う方策を理解する。  (55 前沢政次/4回) 寒冷地における保健医療福祉上の課題を把握し、医療施設間の連携、行政と保健活動のあり方を検討する。  (56 池田貴夫/3回) 「雪」および「寒さ」をキーワードに、北海道を含む北太平洋地域の人々の生活史について文化人類学的立場から論じ、積雪寒冷地域の環境、文化、地域性に合った生活支援看護学への示唆を得る。	オムニバス方式
	家族看護学特論	(概要) 最近の保健・医療・福祉分野での家族の状況をとらえ、家族が発達課題を達成していく力、健康的なライフスタイルを維持する力、家族員の健康問題に対応していく力を高めるための、家族看護の機能と役割を理解する。具体的には、家族理論や概念を理解した上で、家族が抱えている健康問題、発達上の課題や家族機能の潜在的な問題をアセスメントし、家族介入のスキルについて学修し、実践に活用できる能力を養う。  (オムニバス方式/全15回)  (57 柳原清子/10回) 家族および家族看護の定義を家族看護理論をもとに概説し、家族看護アセスメントに必要な家族介護力評価、家族教育、役割調整、ソーシャルサポートの活用や介入方法を教授する。  (14 吉川由希子/5回) 小児看護領域における家族の機能、家族看護の捉え方及び家族看護の実践について教授する。	オムニバス方式

## 授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 実践看護学分野 地域生活看護学領域	地域生活看護学特論	(概要) コミュニティにおける人々の生活スタイルと健康(～疾病)の関連を、共有する環境、社会資源等と関連させて分析し、高齢者、在宅看護を要する個人・家族および集団の健康ニーズを顕在化し、的確なアセスメントと問題解決能力、住民参加の力量形成過程の支援ができる能力を培う。  (オムニバス方式/全15回)  (5 坂倉恵美子/8回) 様々な場で生活する認知症及び加齢や疾病による生活障害を有する高齢者と家族の生活状況をアセスメントし、生活の場の違いによる援助方法について教授する。  (3 加藤登紀子/3回) 世代を超えた生涯健康づくりの視点から、さまざまなライフステージの人々が共生する場の生活を支援する健康科学のエビデンスを追及する。  (7 スーディ神崎和代/4回) 多様な在宅看護の現状を踏まえて、関連する社会的資源を発掘し、関連諸機関との連携体制への理解を深める。加えて、指導・教育・研究を含む幅広い在宅看護活動の出来る専門家としての基礎を学習し、自らの方向性と可能性について考える機会とする。	オムニバス方式
	老年看護学特論	加齢過程および健康問題を有する老年期にある人々や家族に対する保健・医療・福祉による総合的アセスメントを行い、実践的に援助方法を探究する。高度老年看護の実践を通して、理論・研究・実践のプロセスを批判的に考察する。さらに、国内外の老年看護に関する論文精読を行うことにより、自らの研究課題の方向性と妥当性を検討する。	
	在宅看護学特論	ヘルスケアシステム全体での在宅看護学の位置づけを示し、高度実践在宅看護学を定義する。指導者・管理者の立場から在宅療育における内外環境分析を含む質の改善・評価方法、危機管理、人事・財務管理、成人教育方法論などを学修する。国及び地方自治体レベルでの在宅看護関連政策や諸制度を学修し、それらの利用者へのインパクト、効果の評価方法を学ぶ。諸外国の在宅看護学実践実情を示し、クリティカル思考をもって日本の実情との比較・検討し、今後の日本の在宅看護学構築の在り方について考察する。	
	地域看護学特論	コミュニティの生活実態と健康課題との関連を構造的にとらえ、理論・モデル化の適用・開発を試み、ヘルスプロモーションのためのコミュニティケアの展開方法と技術開発を探究するとともに、少子高齢社会における健康の社会的価値の評価、健康を保証するシステムづくり・資源開発・連携方法などについてクリティークを行うことで組織的施策化能力を鍛える。	
	地域生活看護学演習	高齢社会が進行していく中で、地域生活看護学の視点から研究課題の方向性を発見し、その研究課題の社会的妥当性・関連性を相互にクリティークすることで自己の研究の有意性を確立する。	
	老年看護学演習	加齢過程および健康問題を有する老年期にある人々や家族に対するアセスメント技法を修得し、看護援助の方法を総合的にとらえ、実践を通して援助方法を探究する。また、加齢、老化、サクセスフルエイジングに向けた生活援助について焦点化し、該当する課題の研究的動向や研究方法について理解を深める。	
	在宅看護学演習	在宅ケアを支える複数の専門職種との協力体制を示し、外部交渉・調整・実施・評価方法、及び社会的資源発掘と活用・応用の実践を学習する。また、地域・地方自治体とのネットワーク構築し、新たな社会的資源開発に向けての方法論を学び、在宅看護専門職としてアセスメントや在宅難病療養者などの看護方法論に加え、スタッフ教育・調整・管理・研究を含む高度在宅看護実践力を養う。さらに、諸外国・国内外の在宅看護事例を検討・理解し自らの研究課題の方向性・妥当性を検討する。	

## 授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 実践看護学分野 母子看護学領域	地域看護学演習	選択した一定地域の構造・機能と健康情報について科学的に検証し、抽出された複数の健康課題の関連性からポピュレーションストラテジーを提案したうえで、当該地域のフィールドワークを行う。この一連の過程を通して、地域社会の変化に対応できる保健看護ニーズの予測、保健看護活動のあり方やその実践を支える能力についての基礎固めをする。	
	母子看護学特論	(概要) 母子看護の歴史の変遷および現代における母子看護の概念を学修する。また、胎生期から思春期にいたる子どもの成長発達、健康、生育環境に関する概念の変遷と実態を俯瞰し、今日的な健康課題を吟味する。さらに、少産少子社会における母子保健・医療・福祉の動向と制度・政策を踏まえ、育児問題と支援ニーズを把握し、社会的支援の課題を討論する。  (オムニバス方式/全15回)  (10 宮崎みち子/8回) 母性看護領域について学修する。母性看護の歴史を辿り、そこにおける母子保健の動向を探る。また、母子を取り巻く関係法規を概観しつつ、母性看護の現代的課題を抽出し、この課題解決に向けた方策を検討する。  (9 松浦和代/7回) 小児看護領域について学修する。特に少産少子社会における母子保健・医療・福祉の動向と制度・政策を踏まえ、育児問題と支援ニーズを把握し、社会的支援の課題を討論する。	オムニバス方式
	母性看護学特論	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念、およびその歴史的背景を考察する。次いで、この概念を取り巻く現代医療を概観する。これらを基盤に、女性の生涯を通じた健康に影響を与える生物学的および社会文化的要因の分析に必要な知識を獲得し、リプロダクティブ・ヘルス/ライツにおける看護者の役割を考察する。その際、特に倫理的側面に主眼をおく。	
	小児看護学特論 I	子どもの成長発達と家族発達の基礎理論を学修する。また、小児期に起こりやすい健康問題、および青少年の危険行動の特徴を分析し、ヘルスプロモーションおよびセイフティプロモーションの理論的な枠組み参照しながら、小児看護が担うべき役割を考察する。	
	小児看護学特論 II	子どもの成長発達の促進、健康問題の予防と解決に向かう看護の構築方法、およびセルフケア・ライフスキル、ストレスコーピングの能力を育む健康教育の諸理論について学修する。このような課題に関連する国内外の優れた文献を講読し、そのクリティックを通して、諸理論の臨床活用のあり方を考察する。	
	母子看護学演習	小児のヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント、親子関係・家族機能・生育環境に関する査定、および発達支援や育児支援の評価に関する技法を学修する。 また、思春期女性の健康課題（人工妊娠中絶、性感染症、性暴力など）に焦点を当て、これら課題に関する身体的、心理的、社会的および倫理的側面を考察し、予防的な看護援助とその評価方法を検討する。	
	母性看護学演習	女性の生涯を通じた健康支援に向け、日本のみならず世界的視野に立ち、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する健康課題の一つである人工妊娠中絶について学修する。具体的には、日本、アメリカおよびその他の国々の人工妊娠中絶の実状とその背景を分析し、この課題解決に向けた具体的なケア方法およびケアの開発を検討する。	

## 授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 実践看護学分野 成人看護学領域	母子看護学領域	小児看護領域の専門看護師と管理者、および小児看護関連分野の実践者達の活動について知り、子ども・家族の健康ニーズに応じた看護援助の展開方法と有機的連携の意義について学修する。以上の学修を通して、小児看護における実践・教育・コンサルテーション・調整・倫理調整・管理の基礎的な手法を修得するとともに、臨床看護研究の意義と責務を確認する。	
	小児看護学実習 I	小児専門病院医療部門および外来部門、特定機能周産期母子センターなどを実習施設として、指導教員によるスーパービジョンのもと、総合的な情報収集、分析、個別対応のための計画立案、関係諸機関との調整や連携、計画の遂行、および成果の評価方法を学修し、総合的な実践能力を養う。難易度の高い事例や特殊な事例については個別の事例検討を行う。	
	小児看護学実習 II	小児専門病院療育部門、総合発達支援センターなどを実習施設として、指導教員によるスーパービジョンのもと、総合的な情報収集、分析、個別対応のための計画立案、関係諸機関（地域保健師、保育・子育て支援センター、肢体不自由児特別支援学校、障害児者総合相談支援センター、訪問看護ステーションなど）との調整や連携、計画の遂行、および成果の評価方法を学修し、総合的な実践能力を養う。難易度の高い事例や特殊な事例については個別の事例検討を行う。	
	成人看護学特論	(概要) 成人期の健康課題（急性期課題、慢性期課題）を分析し、成人学習理論を中心に援助関係形成や苦痛に対する援助等を通し課題解決への方略法を修得する。さらに健康課題と安楽や緩和ケアについてペインコントロールを含め、その方法や効果判定について修得し、QOL維持・向上を図る援助を考察する。  (オムニバス方式／全15回)  (1 中村恵子／7回) 成人期健康課題、急性期看護 成人期の健康課題、発達理論、成人学習理論と急性期の健康課題について理解する。また、アドボカシーの概念や倫理的課題、人権擁護についての視点を養う。  (2 内田雅子／2回) 慢性期看護 慢性期の健康課題について明らかにする。  (1 中村恵子・2 内田雅子／6回) 心身の苦痛緩和、緩和ケア、援助法の効果判定や病期とQOLについて明確にし、成人看護学における高度実践者について考察する。	オムニバス方式
	急性期看護学特論	急性期疾患を疫学的に概観し、ライフサイクル・ライフタスクとの関係を理解する。急性期病態患者・家族の特質から、医療選択における意思決定について考案する。また、脳死判定や臓器移植などを踏まえ、多角的に倫理的課題を抽出し、これからの急性期看護について言及する。	
	慢性期看護学特論	慢性疾患の複合的な病態をライフスタイルと関連づけてアセスメントすると同時に、慢性の病いを生きる個人とその家族を多角的に理解する視点を培う。また、その人らしい生活を支えるための教育、相談、モニタリング、依頼・調整等の援助方法を学び、慢性期の療養行動特性を踏まえた援助を検討する。さらに、討論を通して批判的思考力を養い、慢性期看護学における理論、研究、実践の関係を検討する。	

## 授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 実践看護学分野 成人看護学領域	急性期病態管理学特論	(概要) 急性期疾患の生理学的変化や代謝・免疫学的な変化を理解し、病態アセスメントができる知識を修得する。また、医学診断・治療を理解し医学的介入が必要な患者・家族の治療が適切であるかを高度実践者として判断し、より良い医療環境調整が図られる能力を育成する。  (オムニバス方式/全15回)  (58 田中秀治/7回) 急性期の治療計画を理解する。また、プレホスピタルケアからホスピタルケアへの一貫した医学介入を理解する。  (59 山口芳祐/4回) 急性期の生理学的変化、免疫学的変化とアセスメントを理解する。  (60 浅井康文/4回) 災害急性期の医療と課題について理解する。	オムニバス方式
	成人看護学演習	成人各期(前期・中期・後期)、及びさまざまな病期(急性期・回復期・慢性期・終末期)におけるフィジカルアセスメントを基本として、高度専門職者に必要な全人的・包括的アセスメントの技法を習得する。また、成人各期・各病期における健康問題のアセスメント・診断・看護ケアに関する海外の研究論文を講読し、実践・研究の知識基盤を開発する。さらに実践・研究における測定用具の開発方法や信頼性・妥当性を批判的に検討する。以上の演習内容に立脚し、自己の専門領域における成人看護学の授業計画を立案する。最後に、演習を振り返り、実践・研究に必要な論証のための演繹的・帰納的推論の課題を討論する。	
	急性期看護学演習	(概要) 危機的な状況にある人を総合的に捉え、衝撃的な体験に際し人間の反応や回復過程を理解し、衝撃的な体験からの立ち直りを促進させる援助、専門的な支援法を学修する。また、衝撃的な体験者の家族に対する支援方法も考察する。  (オムニバス方式/全30回)  (1 中村恵子・17 菅原美樹/30回) 急性期に活用される理論の理解の基、衝撃的な体験の反応や立ち直りを促進させる援助・支援法を考える。  (1 中村恵子・17 菅原美樹・61 平尾明美・51 藤野智子/7回) この間で、衝撃的な事例分析を行い、家族を含めた援助方法を考案する。	オムニバス形式
	慢性期看護学演習	慢性疾患をもつ成人とその家族を包括的にケアする視点と技法を習得する。高度な慢性期看護の実際を通して、理論・研究・実践の統合プロセスを批判的に考察する。また、慢性期のさまざまなステージに対応した支援方法や治療環境・社会支援などを評価し、複雑で解決困難な事例の看護解決法を考案する。さらに、慢性期看護実践の組織化を推進する教育・連携・評価について検討する。以上の演習を通して、自己の研究課題を明らかにするための研究方法を検討する。	



## 授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 実践看護学分野 精神看護学領域	成人看護学領域	<p>(概要) クリティカルな状況(救命救急や集中ケア部門など)にある患者と家族に、倫理的配慮に基づいた卓越した専門的な看護ケアの提供と評価を行い、客観的かつ論理的思考能力を高める。また、他職種と連携しながら患者にとって最適な治療環境を提供・管理するために必要な調整能力・指導能力・相談能力などを養い、専門看護師に期待される能力(卓越した実践・教育・相談・連携調整・研究・倫理的調整)の修得・維持・向上を図る。</p> <p>(オムニバス方式/全270時間)</p> <p>(1 中村恵子・17 菅原美樹/180時間) 全実習を通し、卓越した看護実践、倫理的配慮に基づいた看護提供、論理的思考能力の育成、教育・相談、最適治療環境の判断などについて指導・助言しCNSとしての能力を図る。</p> <p>(1 中村恵子・17 菅原美樹・51 藤野智子・61 平尾明美/90時間) 専門看護師等のスーパービジョンを受け、専門看護師の役割について修得する。また、事例検討会にて専門看護師等から指導・助言を得る。</p>	オムニバス方式
	精神看護学特論Ⅰ	<p>(概要) 精神力動論、ライフサイクルにおける心の発達と健康、ストレスとストレス・コーピングを学び、メンタルヘルス看護を学修する。また、メンタルヘルスが脅かされた場合に生じる危機、救急、障害などについて学び、看護介入を考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 山本勝則/10回) メンタルヘルス看護を行うための基礎として精神力動論、ストレス理論ライフサイクルなどについて学修する。また、ストレス脆弱性とレジリエンスについて考察する。</p> <p>(62 阿保順子/5回) メンタルヘルスが脅かされて危機、自殺の危険、精神科救急、急性期精神障害など陥った場合について学び、看護介入を考察する。</p>	オムニバス方式
	精神看護学特論Ⅱ	<p>(概要) 急性期・回復期・慢性期の特徴に対応した精神障害者への援助法と、それら各期に、リハビリテーションおよび社会生活を見据えた援助を組み込む方法を学修する。そして、デイケア、社会復帰施設、地域において看護師が果たすべき役割を検討し、福祉の観点を取り入れたリカバリー、エンパワーメントおよび家族への支援について学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 山本勝則/12回) セルフケアモデル、リハビリテーションモデル、セルフヘルプグループ、エンパワーメントなどを学び、施設でも地域でも当事者を主体とした看護を展開することについて考察する。</p> <p>(63 藤井博英/3回) 精神障害者の地域生活を支援する精神訪問看護について、アセスメント、再発予防、内容と形態を学修する。</p>	オムニバス方式

## 授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 実践看護学分野	精神看護学領域	精神看護学特論Ⅲ (概要) 心の健康を促進するための方法および精神的に不安定になっている人への介入方法を学修する。また、複雑な問題を有する患者や処遇困難な状況を取り上げて、適用することができる理論と援助法とを考究する。そして、それらの取り組みの根拠となる法と倫理について学修する。  (オムニバス方式/全15回)  (11 山本勝則/13回) 心の健康、心の問題の予防、カウンセリングやアサーションなどの対処法、依存、精神看護に関連する法と倫理について学修する。また、リエゾン看護および困難事例について学修する。  (63 藤井博英/2回) イタコを訪れる者は、精神面のセルフケアに取り組んでおり、イタコの役割は、悲嘆の癒しであるとみなすことができることを考察し、文化とメンタルヘルスの関連を学修する。	オムニバス方式
		精神看護学演習Ⅰ 精神看護の基礎にある自己理解と他者理解に関わる様々な理論を調べ、その意味と看護実践への適用可能性を探究する。そして、自己理解と他者理解の技法としてのコミュニケーション、プロセスレコード、ロールプレイについて体験を通して修得する。	
		精神看護学演習Ⅱ ケア/ケアリングに関する文献およびエスノグラフィー精神科看護に適用した文献を読み、精神障害者を看護することについて、日常の実践から飛躍し、新しい視点と実践を模索する。	
		精神看護学実習Ⅰ 精神看護学特論および演習で修得した知識を統合し、実践に応用するとともに、実践上の問題点を見出す。精神看護全般について、先進的な看護方法を学ぶとともに、対象の個別性に適した実践を行う能力の向上に取り組む。特に救急および急性期の看護については、リハビリテーションも見据えた高度な実践力を修得する。	
		精神看護学実習Ⅱ CNSの役割および看護管理について学び、看護実践能力を向上するとともに、精神看護学実習Ⅰで見出した看護実践上の問題に取り組む、課題研究へと繋げる。	
	看護技術学領域	看護技術学特論Ⅰ 看護技術はあらゆる人々に共通する原理原則と、個別的で創造性に富んだ実践的技術の両側面が有機的に結合し、提供されている。看護技術教育に必要な学習理論や概念をふまえてこれまでの技術教育を概観する。特に基礎教育と卒後の臨地実践におけるギャップ等、現状の課題を探索し、文献レビューによる検証を通じて看護技術教育に関わる諸課題にアプローチする。このプロセスを通じて看護の対象や専門領域に特異的な、あるいは普遍的な課題を明確にする。	
		看護技術学特論Ⅱ 看護技術のエビデンス、入院患者の療養環境における課題について隣接領域を含む先行研究をレビューする。授業はゼミ形式ですすめる。各自が関心のあるテーマについてレビューした内容をプレゼンテーションし、グループディスカッションをとおして、文献クリティーク能力を養う。また、これらのプロセスから研究の概念枠組み、研究方法や研究デザインの構築、評価方法、研究倫理等、実践的な看護技術学の研究のあり方について多角的に検証する。	

## 授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
実践看護学分野	看護技術学領域	<p>(概要) 看護技術教育におけるヘルスアセスメントの概念、系統的フィジカルアセスメント技術教育の導入における背景を教授した上で、フィジカルイグザミネーションの基本手技を修得し、実践的な看護アセスメントの教育技法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(8 樋之津淳子/24回) 模擬患者やシミュレータを導入したイグザミネーションの技術指導方法、ならびに臨地における実践的なヘルスアセスメントのトレーニング方法について、実践能力を養う。</p> <p>(64 山内豊明/6回) 系統別フィジカルイグザミネーションの実際、評価方法、教育技法について学ぶ。</p>	オムニバス方式	
	看護技術学演習Ⅱ	<p>看護学と人間工学などの学際的融合を生かした研究アプローチに基づき、さまざまな看護技術のエビデンスや安楽性、ヒューマンエラーの予防等について検証する。対象を限定せず、学生の関心領域における臨地での諸課題をフィールド調査により抽出し、分析するプロセスを通して課題解決に向けた技術や技術教育方法を実践的に検証する。特に、看護場面における作業姿勢や動線の安全性、入院環境、指圧・マッサージ、リラクゼーション技術の検証などを学ぶ。また、入院環境、看護技術が生体に及ぼす影響、看護技術の段階別客観的評価方法、技術教育方法の実験的検証などについて学ぶ。</p>		
専門教育科目	看護教育・看護マネジメント学特論	<p>(概要) 看護政策変動の中で、社会のニーズに対応しつつ変化してきた経緯について学習し、看護領域の教育と管理に関する諸問題をとりあげ、考察し、看護の責務や管理の実際を踏まえ、高度専門職業人に必要な看護管理上の問題解決・改善するための方策を検討する。さらに、これからの地域住民ニーズの変化と看護教育、継続教育、看護管理に必要な方策について展望する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 定廣和香子/8回) 看護教育制度、看護教育課程、看護教育授業展開など、看護教育学に関する問題を課題文献の精読とディスカッションを通して検討し、解決のための方向性を見いだす。</p> <p>(4 河野總子/7回) 看護管理の変遷と看護政策、看護理念と組織運営、質の保障と情報管理などの様々なテーマを中心に、問題定義し、関連資料の精読・ディスカッションを通して、解決のための方策を見だし、これからのマネジメントを展望する。</p>	オムニバス方式	
	看護教育・管理学分野	看護教育学特論	<p>看護専門職教育特論で得た知識を統合的に発展させ、高い教育的機能を育成するとともに、看護教育学の研究対象、目的、特徴、課題に関して理解を深める。具体的には、仮想看護大学の統合カリキュラムを編成し、学科目を設定し、模擬授業を計画・実施・評価する。これら一連の過程を通し、看護実践・教育実践の場において、教育的機能を発揮するための基礎的能力を育成するとともに、看護教育学の研究対象、目的、特徴、課題を考察する。</p>	
	看護マネジメント学特論	<p>医療サービス提供における看護管理実践活動を、「改善」を下限とし「改革」するために、「質保障」に影響する「看護部組織デザイン」「リーダーシップとマネージメント」「人的資源のフローと評価」「予算と財務」「組織内キャリア発達」「看護の質評価」について、文献クリティックとディスカッションからディベート能力と管理実践活動への適応力と問題解決能力を養う。同時にヘルスケアサービス提供機関における人的資源活用を効果的に行うための理論や組織体制および組織行動に関する研究方法を探索し、高度専門職業人として実践志向的看護管理者を目指す。</p>		

## 授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護マネジメント学分野	看護教育・看護マネジメント学演習	「高度先進医療の中の看護の本質」「人的資源の活用」「組織内キャリア開発」などを学習し、問題発生に影響するコミュニケーション能力、情報収集と処理能力、卒後教育能力、研究能力を養い、組織目標を目指した問題解決力を獲得する。具体的には、次の2コースから構成する。コース1は看護教育・看護マネジメント学特論の学習内容を基盤とし、関連する内容を対象に最新の知識等を論述した海外文献(図書を含む)を選択し、概要および我が国における看護教育・看護管理に関する問題現象への活用可能性、課題を検討する。コース2は、看護教育実践、看護管理実践を参加観察し、おのおの実践を支える普遍的な要素について考察するとともに、特論、コース1を通して学習した知識を活用し、その特徴を解説する。	
	看護教育学演習	学生自身の研究課題との関連から看護における教育、援助とはなにか、人を育てること、人の成長を促進すること、心理的な援助、治療的な関係、看護制度等の歴史の変遷などに焦点をあて、研究論文を選択し、研究批評を実施し、内容、理論、方法を学ぶ。また、討論を通して看護実践、教育実践の研究成果の活用可能性について考察する。	
	看護マネジメント学演習	看護マネジメント特論を基盤とし、現場の実際と対比させながら、「ケアの質と臨床倫理」「組織倫理」「安全管理」「チーム医療と看護管理」「看護管理と目標管理」「サービス提供体制」などを中心に検討を行い、看護現場の改革と看護職員の成長に貢献できる能力を養う。その上で、医療現場における患者・家族の医療ニーズ、看護の質、医療やケアの効率化と患者のQOLに寄与するシステムづくりなど、看護サービスの組織管理の実践的能力を培い、同時にヘルスケアサービスの提供の結果であるアウトカム評価について探求する。	
専門教育科目	専門科目	研究	特別研究 (概要) 看護専門領域における研究課題を絞り、担当指導教員の指導・助言のもと研究プロセスを実践し研究論文を完成させる。 (5 坂倉恵美子・20 村松真澄) 老年看護学領域における各自の問題意識を精選および研究課題を選定し、研究過程を踏襲した方法論的吟味を行う研究活動に取り組み、修士論文を作成する。 (7 スーディ神崎和代・15 菊地ひろみ) 学生のニーズに基づき在宅看護課題を選択への助言を与え、研究指導を行なう。目標については指導者と学生で共同に設定する。今までに得た研究技法と知識を統合し、研究を行い、修士論文を完成する。 (1 中村恵子) 急性期看護学領域から大学院生が選択した研究課題について、研究プロセスを実践し、修士論文を作成する。 (9 松浦和代・14 吉川由希子) 小児看護学領域から関心のある研究課題を選定し、研究過程を踏襲した研究活動を実施して、修士論文を完成する。 (10 宮崎みち子) 母性看護学または助産学に関連する研究課題を見出し、一連の研究プロセスを丁寧に辿り、修士論文を作成する。 (8 樋之津淳子・12 大野夏代) 基礎教育または臨地における看護実践に必要な技術教育、看護技術のエビデンスに関する科学的検証などの関心のある研究課題を実践的に研究し、修士論文を作成する。 (4 河野總子・19 星美和子) マネジメント学分野から学生が選択した研究課題について、論文の一連のプロセスを体験し修士論文を作成する。

## 授業科目の概要

(看護学研究科看護学専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 研究		(3 加藤登紀子・18 新納美美) 地域看護領域における各自の問題意識を精錬し、研究テーマを発見するとともに方法論的吟味を行い、一連の研究プロセスを通して地域看護学の学的発展に寄与する基礎的研究能力を養う。  (11 山本勝則・13 守村洋) 精神看護学領域から大学院生が関心を持ったテーマについて、研究プロセスを実践して、修士論文を作成する。  (2 内田雅子) 慢性期看護学領域の健康問題解決に寄与する研究課題について、主体的に研究プロセスを実践し、修士論文を作成する。  (6 定廣和香子・16 佐藤公美子) 看護教育学の研究課題を焦点化し、修士論文の作成、発表に至る一連の研究過程を通して、看護学研究を実施する基礎的能力を習得する。	
	課題研究	(概要) 専門看護師資格取得希望者が当該看護専門領域における特定の課題に対して、担当指導教員の指導・助言のもと課題研究論文を完成させる。  (9 松浦和代・14 吉川由希子) 小児看護実践を通して得られた研究疑問から研究課題を絞り、研究計画書に基づく研究活動を実施して、課題研究論文を完成する。  (1 中村恵子) 専門看護師コースを選択した急性期看護学領域の研究課題から研究過程を踏まえ課題研究論文を完成する。  (11 山本勝則・13 守村洋) 精神看護学領域の実践的課題の中からテーマを選び、研究活動に取り組み、課題研究論文を完成する。	